令和２年度　　学　校　評　価　自　己　評　価　表　　（　中間　・　最終　）

東広島市立西条小学校

学校教育目標	人間性豊かで　創造性に富み　たくましく生きる子どもを育成する	『輝き合う』 ～　一人一人が輝き　照らし合う　～ 【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に，工夫・追求・徹底・協働によって新たな価値を創造する学校 【めざす児童像】何事も自ら進んで「正しく　強く　優しく　永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】笑顔で寄り添い，子どもの心に共感する教職員

	評価計画					自己評価					学校関係者評価				改善方策
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	10月 達成値	2月 達成値	達成度	評価	結果と課題の分析（○成果▲課題）	評価 適正	評価 不適正	評価 分からない	コメント	
主体的に学ぶ	やる気に満ち，自ら進んで学ぶことで，学ぶ楽しさを味わい，資質・能力を高めていく児童の姿	「本気の学び」「深い学び」の実現に向けた指導の工夫を追求し，資質・能力を高める	・研究成果を類型化することで汎用性を高め，日常の授業改善につなげる。	・ＣＲＴの達成度（活用） ・正答率40%未満児童の解消	低75% 中70% 高70% 40%未満の割合を３%未満にする	―	12項目/16項目 ２%	75% 100%	C A	○CRTの結果は，目標値には届かなかったものの，全国平均より19ポイント高く，児童の学力を高めることができたと考える。各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫を類型化したことにより，日常の授業が改善され，結果につながった。 ▲どの学年にも共通して，国語科は漢字の読み書き，算数科は立式，理科は事象の説明に課題がある。 ○正答率40%未満児童の解消については，目標値を達成することができた。授業やスキルタイムなどでの個別指導の成果だと考える。	○	○		・CRTの結果から，学校の取組の成果は十分に表れている。目標値の設定の仕方に課題がある。 ・細やかな指導や工夫された授業の成果だと思う。学び直しや繰り返し学習の大切さを感じた。 ・読書が課題となっているが，その結果が国語のCRT結果に影響しているのではないか。 ・正答率40%未満児童の解消は，0%を目指してほしい。	・類型化した指導の工夫を，日常的に活用し，日常の授業改善をさらに進める。 ・CRTで明確になった各教科の課題を意識し，授業はもとより，スキルタイム，家庭学習などでも取組を行う。 ・個別指導を充実させる取組を引き続き進める。 ・目標値の設定の仕方について再検討する。
		本が好きになり，進んで読書を行う意欲や態度を育てる	・家庭での読書や親子読書を推奨する。 ・委員会活動を活性化する。	・友達に薦めたい本がある ・わが子は家庭で読書をしている	児童評価 95% 保護者評価 75%	85% ―	91% 71%	96% 95%	B B	○児童の読書意欲を高めるため，学級で読書貯金に取り組んだり，本の紹介カードを記入してスピーチを行ったり，自学での「おすすめの本の紹介」を推奨したりした。また，図書委員会が様々なイベントを開き，児童の読書意欲を喚起した。これらの取組により，読書に親しむ児童がさらに増えた。 ▲家庭での読書については，昨年度に引き続き，親子読書や週末の家庭読書に取り組んだが，昨年度からの伸びは見られず，目標値を達成することができなかった。	○ ○			・読書を通して感動や共感を生み出すという視点での取組を進めてほしい。例えば，図書館司書や学芸員になるという取組が考えられる。 ・「読書と学力」「読書と学ぶ意欲」の関係に着目して評価したのは意味がある。 ・保護者の協力が必要だろう。	・学校で高まった読書意欲を，家庭での読書につなげる取組を行う。また，保護者への働きかけを工夫する。 ・児童自身が読書活動の推進を図る活動や読書を通して人と関わる活動など，読書を生かした活動を工夫する。
ふるさとを愛する	西条小・西条町に誇りと愛着をもつ児童の姿	生活科・総合的な学習の時間の系統的な学びを推進する	・開発単元における体験活動の工夫・充実を図り，学校や地域の人・伝統・文化の素晴らしさを実感させる。	・学校大好き ・西条への愛着	肯定的回答率 95% 肯定的回答率 95%	96% 98%	98% 99%	103% 104%	A A	○本年度は新型コロナウイルス感染症のため，生活科や総合的な学習の時間の体験活動が制約されることがあったが，実施時期をずらしたり，オンラインで取材するなど形態や方法を工夫したりし，児童が学校や地域の素晴らしさを実感できる活動を行った。これらの取組により，昨年度以上に，児童の学校，西条への愛着を高めることができた。	○ ○			・申し分ない成果だと思う。 ・「大好き」の理由が言えることは大事なことだと思われる。それぞれの理由を子ども達にも紹介してほしい。 ・地域を知る，感じる活動が愛着につながっている。	・実施時期や形態，方法などを工夫し，児童が地域の人・伝統・文化と深く関わる体験活動をさらに充実させていく。
教育課程を社会に開く	学校の教育目標や経営理念，目指す子供像を教職員・児童・家庭・地域で共有し，協働して教育を推進する姿	校訓に込められた価値と児童が輝いている姿のイメージ（目指す姿）を共有する	・自分の得意，良さ，夢中になれることや自身の成長を実感させる。 ・自分の学びたいことに浸る「鐘なし日」を実施する。 ・仲間と共に学び，生活することのすばらしさを実感させる。	・「校訓の価値」「輝く」のイメージに対する達成度 ・友達の輝く姿を言える児童	児童評価 95% 児童・教職員・保護者による各評価の差10%以内 児童評価 90%	96% ― 92%	98% 児童98% 教職員 97% 保護者 92% 97%	103% 100% 108%	A A	○3年生以上で，9月・12月の2回，「鐘なし日」を実施した。また，年2回，全学級で「友達のよいところ見つけ」を行った。児童は自分の得意，良さを発揮して活動に夢中になったり，自分の良さや成長を実感したりすることができ，それが児童の「校訓の価値」「輝く」のイメージに対する達成度を向上させたと考える。 ○年度初めには，全教職員で「輝き合う」児童の姿のイメージを共有し，各学級でも「輝き合う」イメージを話し合った。学期や行事の前後には，学級で「輝き合うためにどのように取り組むのか」「自分たちは輝き合えたか」を話し合うようにした。これらの取組により，教職員と児童で目指す姿を共有することができた。また，話合いで出された児童の考えや取組の中で見られる児童の「輝き合う姿」をHP・学校だより・学年だよりで紹介することにより，保護者ともイメージを共有することができた。	○ ○			・求められている教育を具現化した取組は先進的で素晴らしい。 ・コロナ禍の中でよく頑張っている。 ・「主体的に学ぶ」「ふるさとを愛する」へのプロセスを評価していると感じる。全体として，各評価がリンクしているのがよい。	・引き続き児童の姿やエピソードなどについて情報を発信することを通して，保護者や地域と目指す児童の姿の共有化を図る。

A･･･100≦（目標達成）　B･･･80≦（ほぼ達成）　C･･･60≦（もう少し）　D･･･60＞（できていない）　達成度＝達成値／目標値